

平成29年度第1回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成29年7月28日（金）10時から11時40分

場 所： 墨田区役所13階 131会議室

議事内容： 1 開 会

2 福祉保健部長あいさつ

3 議事

(1) 『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について
～平成28年度実績及び平成29年度計画～

(2) すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの実績報告

(3) プラットフォームについて（前回のおさらい）

4 閉 会

【配布資料】

墨田区地域福祉計画（概要版）

墨田区地域福祉計画 主な事業 平成28年度実績・平成29年度計画

すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの実績報告

墨田区におけるプラットフォーム

プラットフォームの種類

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏名	所属	出欠席
山口 稔	関東学院大学教授	出席
大久保 勝久	東京都向島歯科医師会	出席
青山 晰子	墨田区薬剤師会副会長	出席
鎌形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘司 康男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野原 健治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼田 典之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
志賀 美穂子	なりひらホーム施設長	出席
横山 信雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	欠席
宮村 柚衣	墨田区男女共同参画推進委員会	出席
石鍋 光子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	欠席
伊藤 林	個人ボランティア	出席
井上 久子	録音グループかりん会長	欠席
齊藤 宮子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外川 浩子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	欠席
青木 剛	墨田区福祉保健部長	出席
石井 秀和	墨田区子ども・子育て支援部長	出席
北村 淳子	墨田区保健衛生担当部長	出席
鹿島田 和宏	墨田区地域力支援部長	出席

事務局

厚生課長 三浦 博司
 障害者福祉課長 杉崎 和洋
 高齢者福祉課長 福田 純子
 福祉保健部副参事 梅原 和恵
 介護保険課長 岩下 弘之
 厚生課 東條、堀井、柴田

議事録（各委員確認用）

【1】 福祉保健部長あいさつ

本日は、今年度最初の会議でございまして、地域福祉計画の平成28年度実績及び平成29年度計画の報告並びにすみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの報告がメインです。忌憚のないご意見をお願いいたします。

【2】 新任委員の紹介

厚生課長から、「志賀美穂子」新任委員を紹介した。

【3】 議事：『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について

(1) 墨田区地域福祉計画概要版の説明

・厚生課長から平成28年度及び平成29年度計画の概要について説明。

(2) 墨田区地域福祉計画 主な事業 平成28年度実績・平成29年度計画の説明

・障害者福祉課長から「作業所等経営ネットワーク事業の充実」について説明。

・生活福祉課長から「生活困窮者自立支援事業」について説明。

・高齢者福祉課長から「高齢者の見守り体制の充実」について説明。

委員からの質問・ご意見

【質問】

○私の地域の民生委員が忙しくしているので増員の要望をしたが、任期の途中では、民生委員の増員ができないと聞いた。民生委員のなり手が足りないと聞くが、もう少し、積極的に民生委員を増やしていく方法はないのか。

また、自分の所属する町会が防災訓練を実施したが、1回行っただけで継続性がない。報告書を作成して終わりだと聞いたが、報告書がまだできておらず、スピード感が足りないと思う。

(委員)

⇒地区に民生委員が不足している場合は、その地区を分割して定数を増やすことができるが、任期途中にはできない。次期民生委員改選時にご相談いただきたい。また、民生委員を増やすために、町会・自治会に出向いて説明している。今期は、充足率90%に達するまで増やすことができた。(厚生課)

⇒民生委員の担い手が少ないという点に関して、民生委員・児童委員協議会長の鎌形会長から何か意見はあるか。(会長)

⇒事務局の努力もあり、民生委員の充足率がやっと90%を越した。

町会から民生委員が長年選出されていないところもあり、その町会では、民生委員がいなくても困っていないという話もあるが、それは、他地区の民生委員がカバーしているからである。この点について、事務局からも説明しているが、なかなか伝わらない。

伊藤委員の地区のように、世帯数が多いところは、事務局に話をしてくれれば地区割りもできるが、地区割りをしていても民生委員のなり手がいない場合がある。この点も苦労している。(委員)

⇒防災について、何かあるか。(会長)

⇒平成27・28年度の2か年にわたり検討し、成果物が昨年度末にできているが、内容を

障害者団体にご確認いただいている段階である。もうしばらくお待ちください。(障害者福祉課長)

○地域の中で発達障害の方が増えていると思う。どうしてか。(委員)

⇒医学的進歩や社会的環境も関係しているのかと思う。保育園でも増えている。(会長)

⇒私たちや医師の認識が高まっている。社会的環境も関係していると思うが、発達障害に関する正しい知識を有する医師が増えていることも理由であると考えられる。(委員)

○要配慮者や災害時の要支援者のおおまかな対応方法は分かったが、聴覚障害者の方等にもどのように、避難勧告などあった場合周知をすればよいのかが疑問に思う。また、要支援者や障がい者の個人情報もないと、どこにそういう方がいらっしゃるかも分からない。その個人情報の開示の対応は行政として考えていただけるのか。(委員)

⇒要支援者の支援については、まだかなりの課題が残っていて検討する必要がある。例えば、重度障害の一部の方については、保健センターの保健師が把握しており、有事の際の連絡先等を定めている個別計画を作っている。個別計画は、医療依存度の高い方から順次作成している。要支援者の支援は、行政だけで対応できるものではないので、医師会や地域の皆様の協力が必要である。(委員)

⇒墨田区でどのような災害を想定して、対応すればいいのかが難しい。小学校で災害訓練をした際に、その時の天候もあり、小学校に人が集まりあふれてしまった。実際の災害時に対応できるのかなと思った。(委員)

⇒福祉避難所については、墨田区の防災課の方で数か所指定しており、災害時を想定した、全庁的な災害対策訓練は行っているが、具体的な場所に集まって訓練するというわけではない。(委員)

⇒小学校を中心に防災拠点会議をしているが、空いている中学校も会議の場として使っていていいと話があり、徐々に広まっていると思う。(委員)

⇒なりひらホームは福祉避難所となると思う。施設では避難訓練を行っていないが、他場所での避難訓練に参加し、地域の方と顔を合わせ、いざという時に対応できるような気持ちを持っている。(委員)

(3) すみだ・地域福祉ボランティアフォーラムの報告について

資料3を用い、厚生課から説明する。説明後、フォーラムの映像を3分程度流す。

委員からの質問・ご意見

【ご意見】

○毎年テーマを変えているがテーマごとに人の集まり具合が異なる。ボランティアに普段から興味がない方にも参加してもらうことが難しく、頭を悩ませている。(委員)

○子育てメッセの実行委員会を昨年度やっていて、悩んでいたのは、お母さんは来るがそれ以外の方はなかなか参加してくれない。ボランティアフォーラムでは、普段参加されない方々にも参加してもらえようように進めていくとさらに良くなると思う。今後も続けていくべきだと思う。(委員)

○映像には字幕がなかったのが、残念であった。字幕があれば様々な方が参加できると思

うのでつけてくれるとありがたい。(委員)

- ボランティアフォーラムの参加者がなかなか増えないのは、フォーラムに参加してその後どうすればいいのかが分からない点と利点が少ないからだと思う。この点を解決する方法や若い人を呼び込む仕組みを考えることも必要である。(委員)

【質問】

- 民生委員に手話を覚えていただくか、手話通訳者と同行して、聴覚障害の方とスムーズにコミュニケーションを取る必要があるのではないか。(委員)
⇒年齢的に細かい内容を表せるほどの手話を覚えることは難しいと思う。これ以外の方法としては、筆記のボードを民生委員に携帯してもらって、聴覚障害者とコミュニケーションを取る方法が考えられる。また、個人情報の関係から障害者の住まい等を知らされていないため、民生委員が聴覚障害者のお宅に訪問した際に、とまどってしまい、うまく対応ができなかったと思う。(委員)

- (4) 墨田区におけるプラットフォームについて(前回のおさらい)
資料を用いて簡単に説明する。

- (5) まとめ(山口副会長より)

- 平成28年度実績及び平成29年度計画について
計画の実績を評価するのに大事なものは、住民の声であると思う。墨田区は、住民の声を大事にしている点で評価できる。
- 民生委員の担い手について
民生委員の充足率も大事だが、民生委員の活動・相談に対する区民の信頼度も大切である。
- 災害時の要配慮者への対応について
専門家における協議はされているが、その時に大事なものは当事者の声が反映されているかがである。
- すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの実績報告について
専門家ではなくより多くの人を集めることが大切であり、住民を主体としたものが大事である。意見交換に重点を置いたこともいい点だと感じた。
ボランティアフォーラムで様々なテーマを掲げて、多様な参加者を中長期にかけて集めていくことが大事である。
- プラットフォームについて
プラットフォームは、様々な意味あいで作られているが、もともとはITの基盤から発生したものと思われる。福祉関係だと、上野社会福祉協議会がプラットフォームの考えを初めて用いたと思う。
プラットフォームというと、日本だと駅のイメージが強いが、これは日本独特であり正しい解釈とは言い難い。日本で使われているプラットフォームは、協働のための方法であり、

特に問題解決のために使われる。問題解決のために、必要な社会資源をどのようにつなげていくのが大切である。

プラットフォームの原則はどのようなものか、具体的な方法はどのようなものか、行政としてその活動をどう支援していくのかを、本格的に検討していく時期に来ていると思う。

プラットフォームという理念を掲げても、うまくいかない理由は、プラットフォームの明確なイメージができていないからである。プラットフォーム作りのマニュアルのようなものを墨田区としてまとめていく時期に来ていると思う。

この協議会でそれを作るのは、時間的に見て難しいため、例えば内容を詰めてから協議会に報告する方法が考えられる。